

令和3年3月17日（水）午後2時～4時
於・市役所6階大会議室（WEB会議）

第3回小平市経営方針推進委員会要録

出席者

【委員】石川久委員長、川口幸子副委員長、竹田広輝委員、津曲秀一郎委員、中川稔進委員、丸尾哲也委員

【市側】行政経営担当部長、行政経営課長、行政経営課長補佐2名

【傍聴者】0人

1 経営方針推進プログラムについて

(1) 「経営方針推進プログラムの策定・編集の考え方」について

(委員)

「研究・検討プログラム」という言葉についてだが、プログラムは、プロジェクトの集合体である。プログラムの中にプログラムがあるのは違和感を覚える。

プログラムは基本的にきっちりとした目標は作らないものであり、プロジェクトは明確な数値目標で管理するものである。「研究・検討プログラム」とあるのは、「研究・検討プロジェクト」とする方がふさわしいのではないか。

(2) プログラムについて

(委員)

今日の事務局からの詳しい説明内容と、配付資料とでボリュームがかなり違うため、説明資料があるなら目を通しておきたいので、事前にいただきたい。

(委員)

全体的なことだが、個別のプログラムを個々に進めると大変な作業になる。一つのことを実施する際は、他のプログラムも同時に進むよう、組み合わせて実施したらどうか。例えば、「No.5 新たな地域コミュニティの醸成に向けた展開」、「No.6 新たな分野への民間事業者の活用」、「No.7 公園整備・管理運営における新たな事業手法の検討」、「No.8 指定管理者制度の推進」をしっかりと実施することで、「No.2 市民参加の更なる推進」、「No.4 市民協働の更なる拡大」も推進される。到達目標はそれぞれあるが、組み合わせることで意識も進み、効果的な取組になるのでは。

(委員)

漠然とした指標については、しっかりとした積み上げをし、具体的な指標として出す

方が進捗管理しやすい。

(委員)

各プログラムの表題名と中身が整合するよう整理した方がいい。例えば「No.1 情報発信と市民との情報共有の推進」とあるが、取組内容はホームページの整理、アプリの合理化である。他のプログラムにも言えることだが、問題意識が明確でないため、ブレが生じ、いろいろと盛り込もうとした結果そうなっているのでは。詳細に書けない部分はあるのかもしれないが、問題意識は明確にしておくべきである。

(委員)

「No.7 公園整備、管理運営における新たな事業手法の検討」において、今後も開発などで公園が増えていく、という長期的な視点で問題点を考えた時、今のうちにこのような対応をしておかないと、将来的に管理が大変になるといった問題意識を示していくことが重要である。

(委員)

研究・検討プログラムは、最長2年とあるが、資料ではすべてが2年になっているため、精査が必要ではないか。方向性3のICT関連は、2年も検討していたら状況が変わっているであろう。スピード感をもって取り組むべきである。

(委員)

前回の資料にあった現状値欄が削除されている。進捗においては、必要ではないか。

(委員)

「No.1 情報発信と市民との情報共有の推進」では、一方的な発信だけでは市民側（受け手側）にどれくらい伝わっているかわからないため、その見える化が必要である。指標として数字では表せないものかもしれないが、簡易的なアンケート機能を使ったり、なにかしら把握する方法があるのでは。

(委員)

「No.25 職員の意欲喚起につながる職員提案制度の見直し」では、提案件数を指標にしているが、多ければいいというものではなく、どれだけ活かせたのが重要である。そこが職員のモチベーションアップにつながるポイントなのではないか。

(委員長)

全体として、問題の提示の仕方がわかりにくいと思われる。何が問題なのかわかるような表記の仕方を工夫していただきたい。